

### 3. 重点対策地区の設定

#### 3.1 重点対策候補地区の設定

鎌倉市の浸水被害ポテンシャルを考慮し、「生命の保護」、「都市機能の確保」、「個人財産の保護」の観点から重点的に浸水対策を行なう地区を設定する。

現況施設の浸水シミュレーション検討対象区域は、1.基礎調査（図 1.1.1 対象排水区域位置図）に示した鎌倉市内において浸水被害が発生した区域について、下水道排水区域界を基に分割した9排水区域を対象とした。

なお、砂押川、梅田川、小袋谷川の3地区については流末、既設管渠の排水系統の関係から1地区に統括した。

よって現有施設の浸水シミュレーション対象区域は以下の7地区となった。

- ①大塚川・新川地区（手広地区を含む）
- ②神戸川・二又川地区（腰越地区を含む）
- ③佐助川地区
- ④山崎川地区
- ⑤玉縄・岡本・植木川地区
- ⑥砂押川・梅田川・小袋谷川地区（大船駅前地区を含む）
- ⑦古川地区

#### 3.2 浸水想定区域及び想定浸水被害の把握

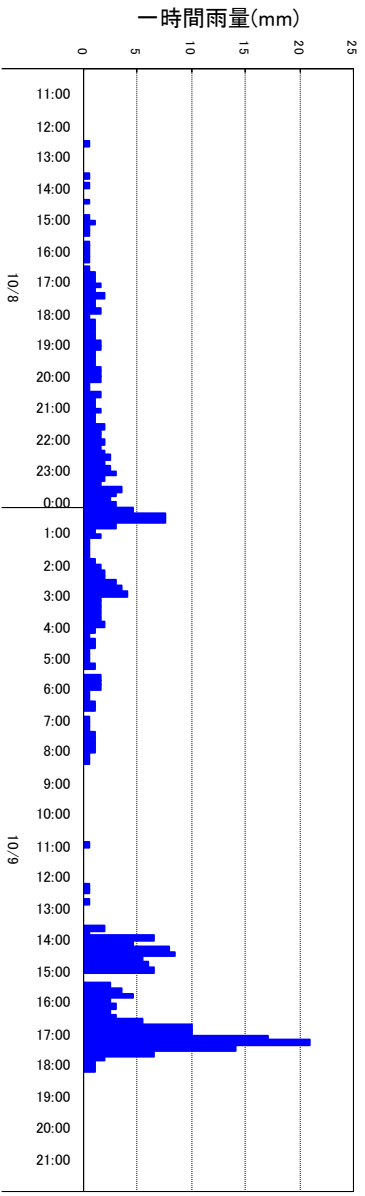
現況施設の浸水シミュレーションを行い、重点対策候補地区における浸水範囲および浸水深等を求め、想定される浸水被害の程度を把握し、重点対策地区の設定や対策立案のための基本的な情報を整理した。

##### 3.2.1 検討対象降雨

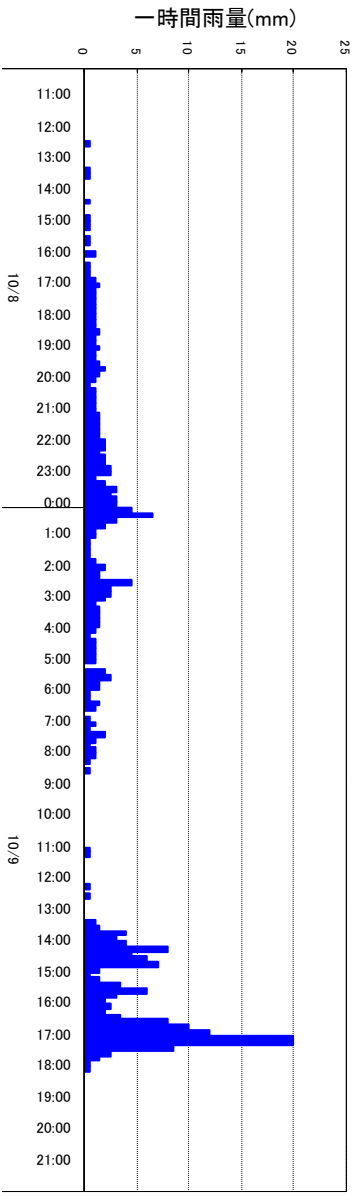
現況施設シミュレーションは、大きな浸水実績が発生した平成16年10月9日洪水の10分間雨量を用いた。（図 3.2.1 参照）

鎌倉市内で観測された3ヶ所の10分間雨量を各地区に与えた。

七里ガ浜水質浄化センター



山崎水質浄化センター



消防本部

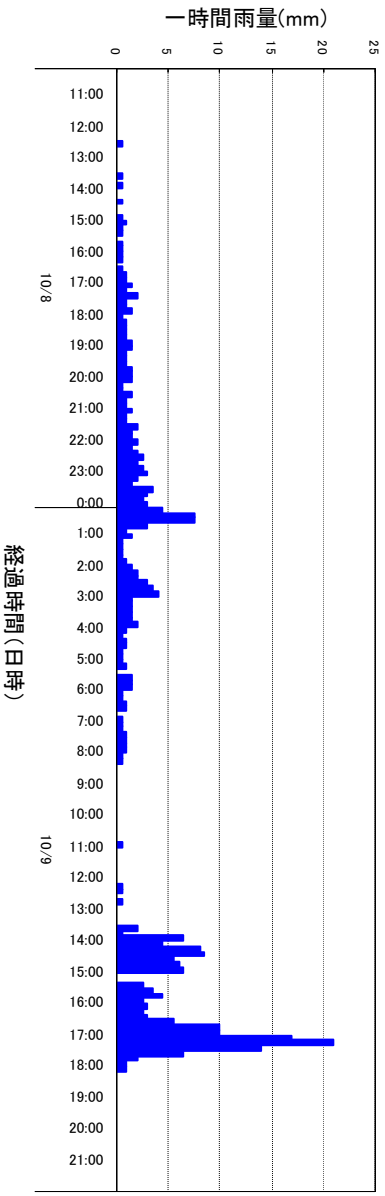


図 3.2.1 平成 16 年 10 月 9 日洪水の 10 分間雨量柱状図

3.2.2 浸水想定区域

浸水シミュレーションを行ない得られた浸水区域を図 3.2.2～3.2.8 に示した。また、各地区の最大浸水深を表 3.2.1 に整理した。

図 3.2.2 (1) 大塚川・新川地区現有施設  
シミュレーション浸水区域図  
(H16.10.9実績洪水 大塚川雨水幹線中・上流域)

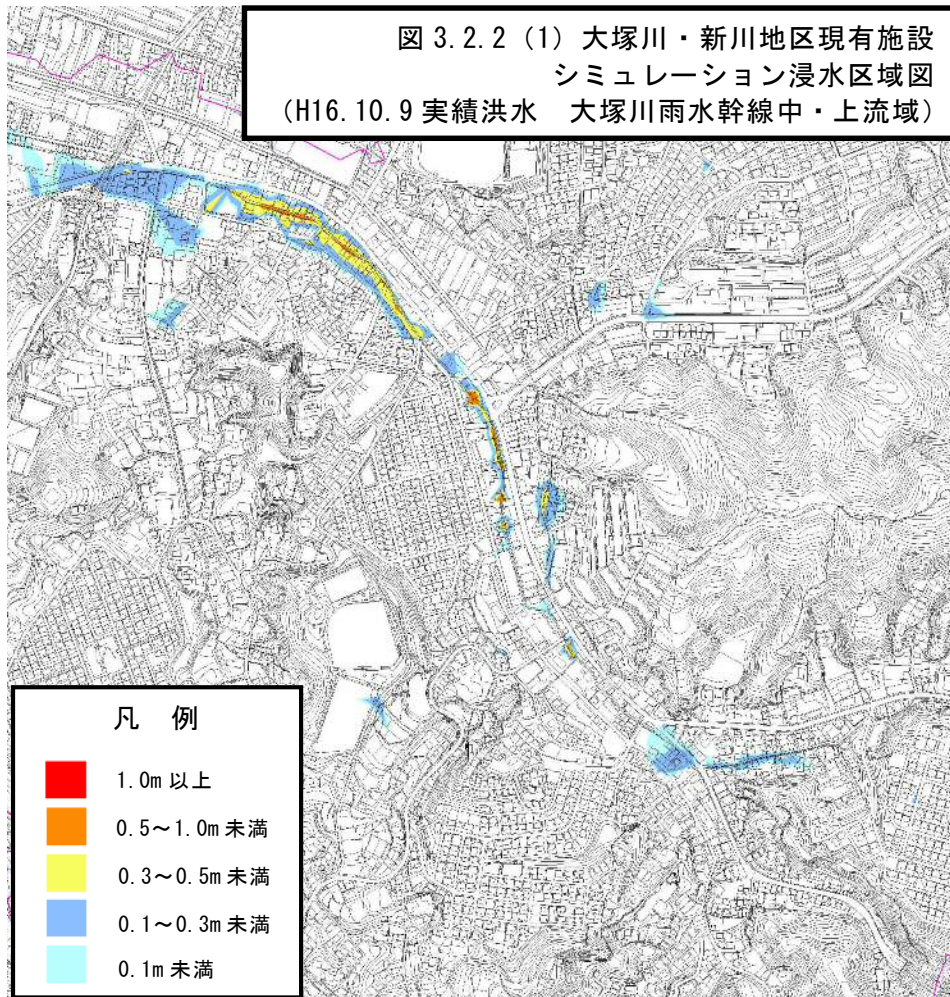


図 3.2.2 (2) 大塚川・新川地区現有施設  
シミュレーション浸水区域図  
(H16.10.9実績洪水 手広地区)

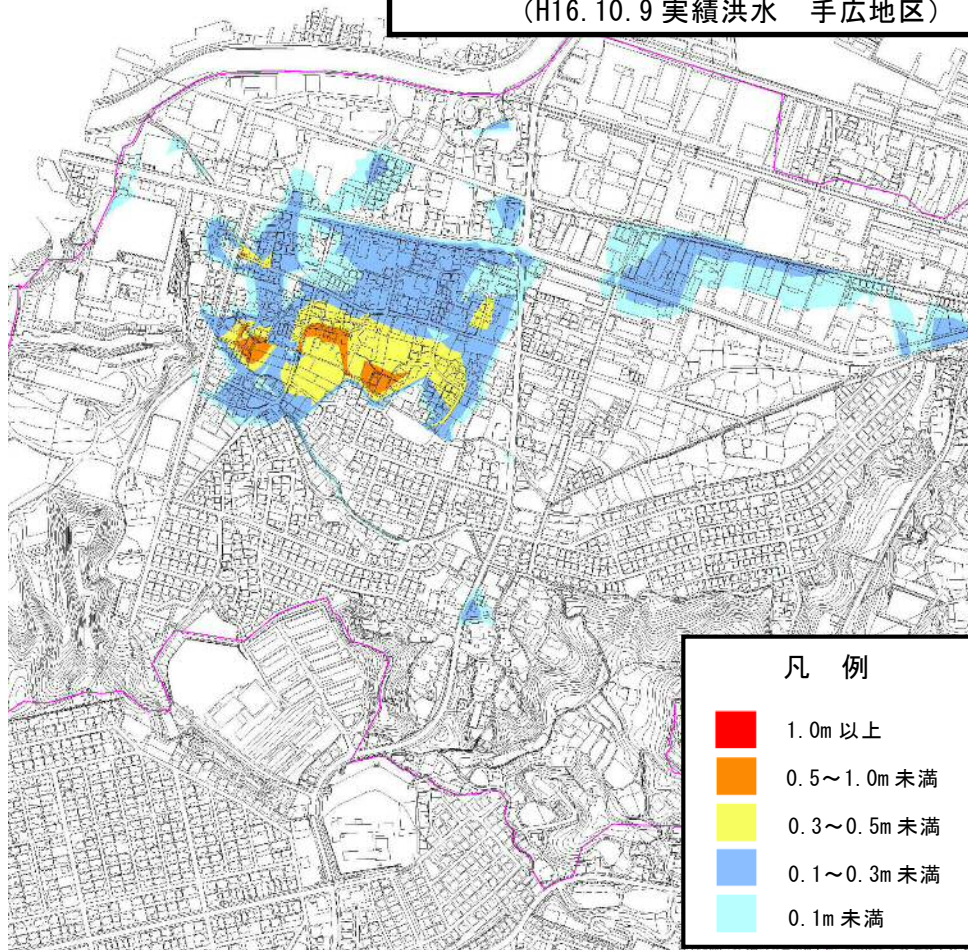




図 3.2.3 神戸川・二又川地区現有施設  
シミュレーション浸水区域図  
(H16. 10. 9 実績洪水)

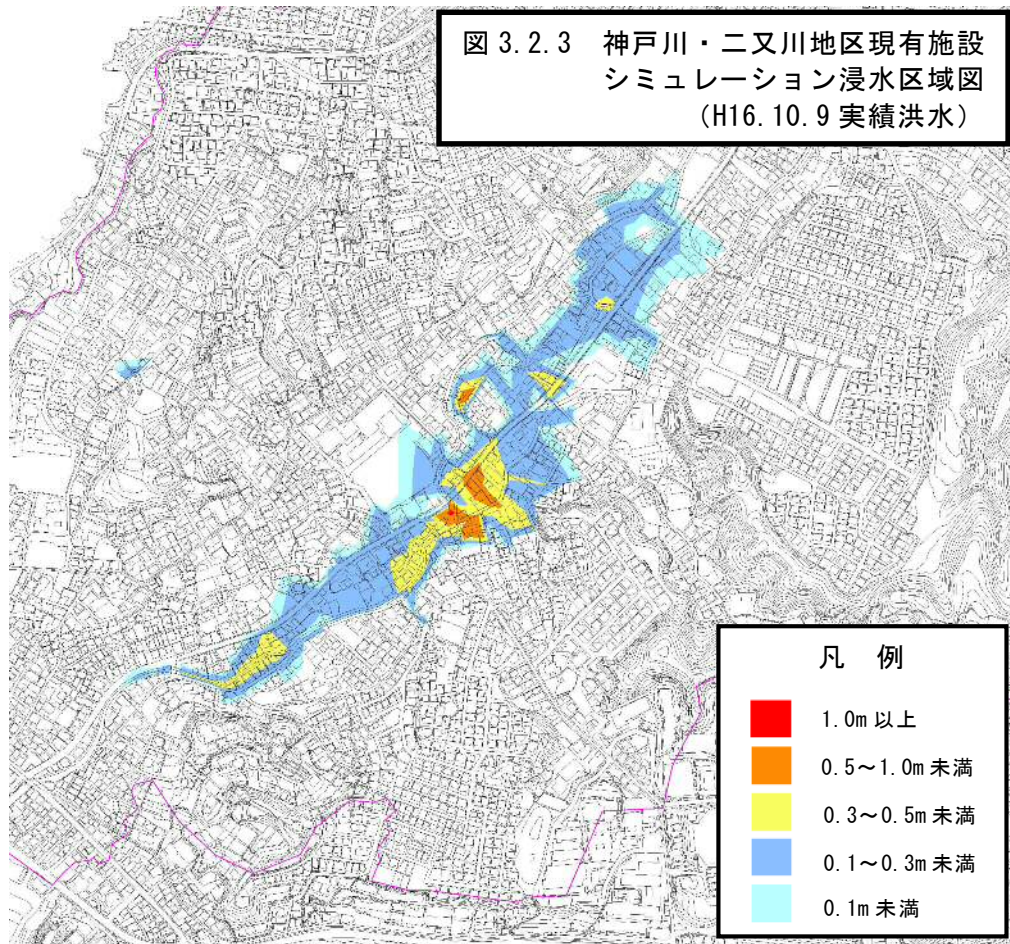


図 3.2.4 佐助川地区現有施設  
シミュレーション浸水区域図  
(H16. 10. 9 実績洪水)

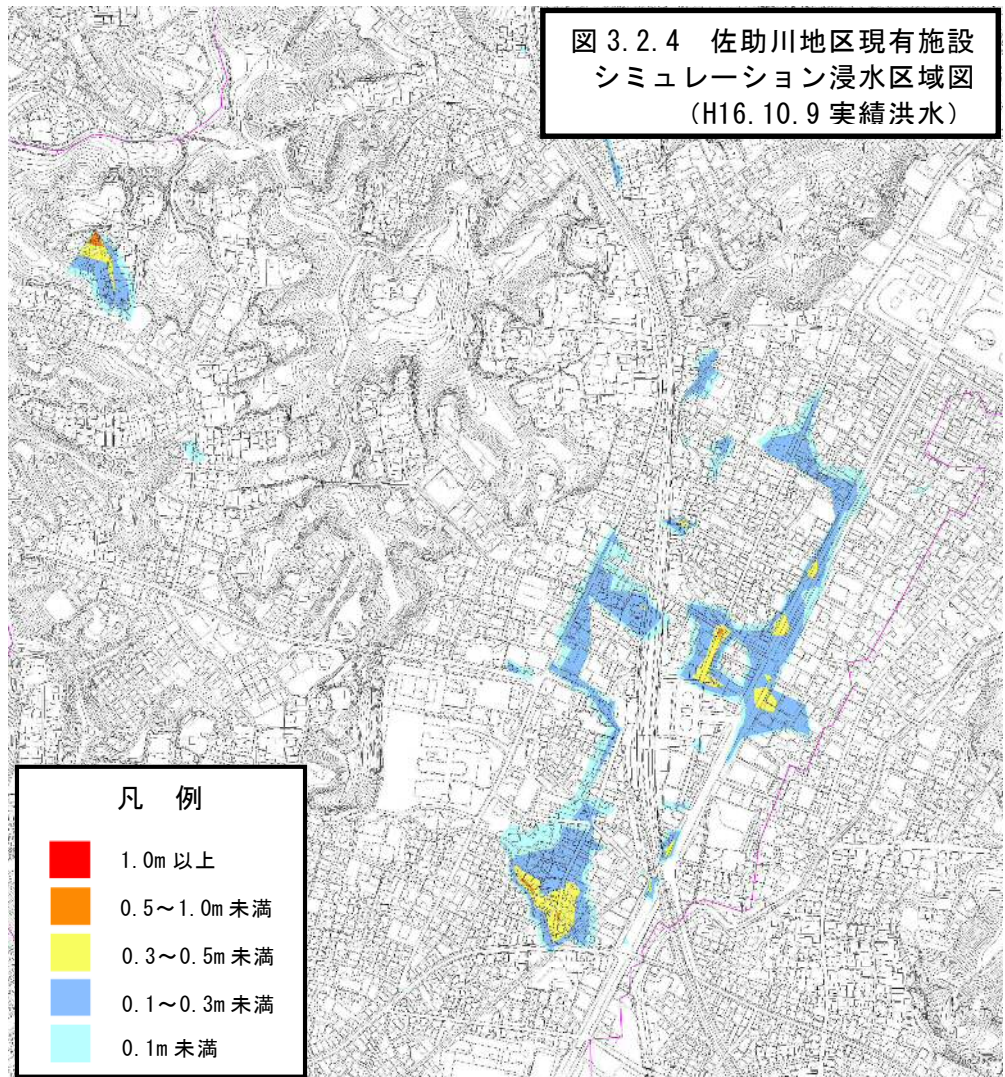




図 3.2.5 山崎川地区現有施設  
シミュレーション浸水区域図  
(H16.10.9実績洪水)

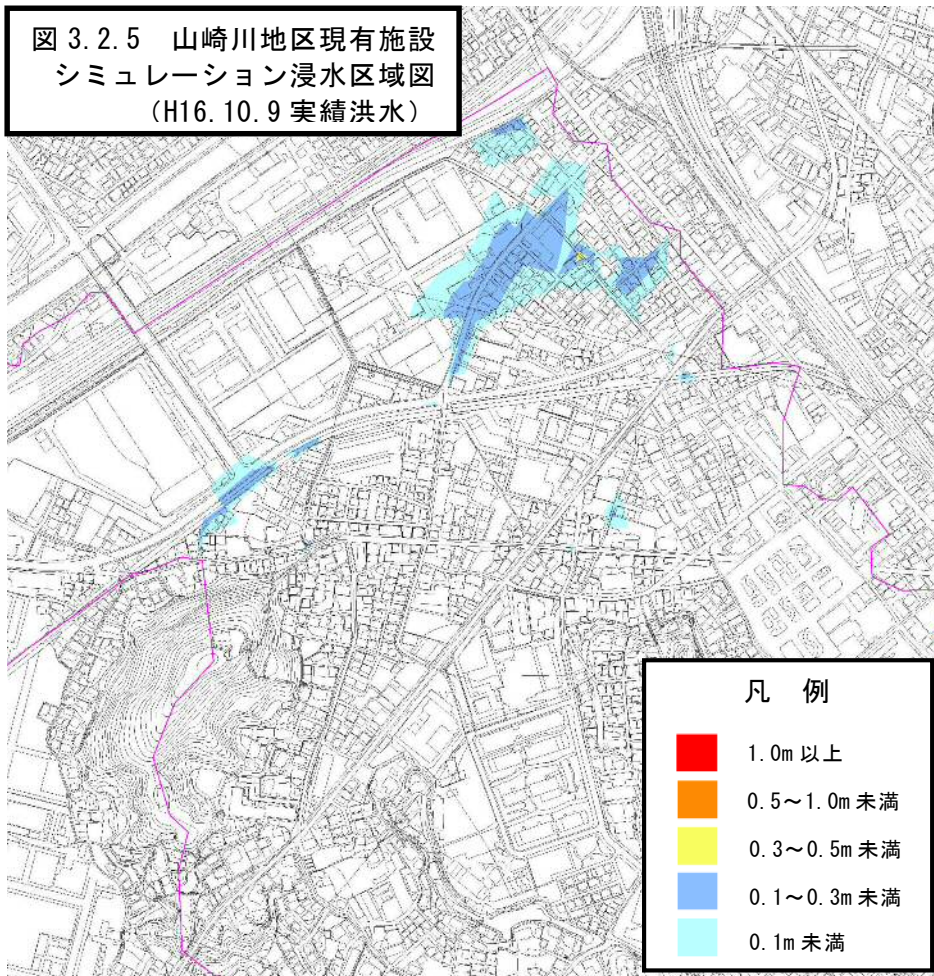


図 3.2.6 (1) 玉縄・岡本・植木川地区現有施設  
シミュレーション浸水区域図  
(H16.10.9実績洪水 玉縄地区)

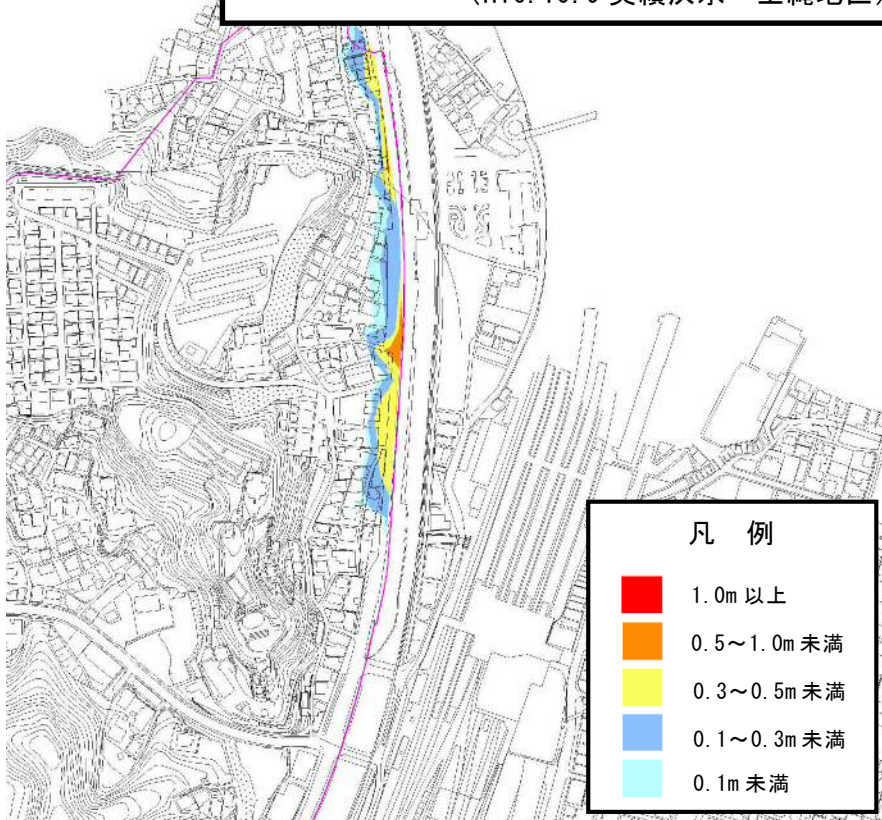




図 3.2.6 (2) 玉縄・岡本・植木川地区現有施設  
シミュレーション浸水区域図  
(H16.10.9実績洪水 岡本・植木川地区)

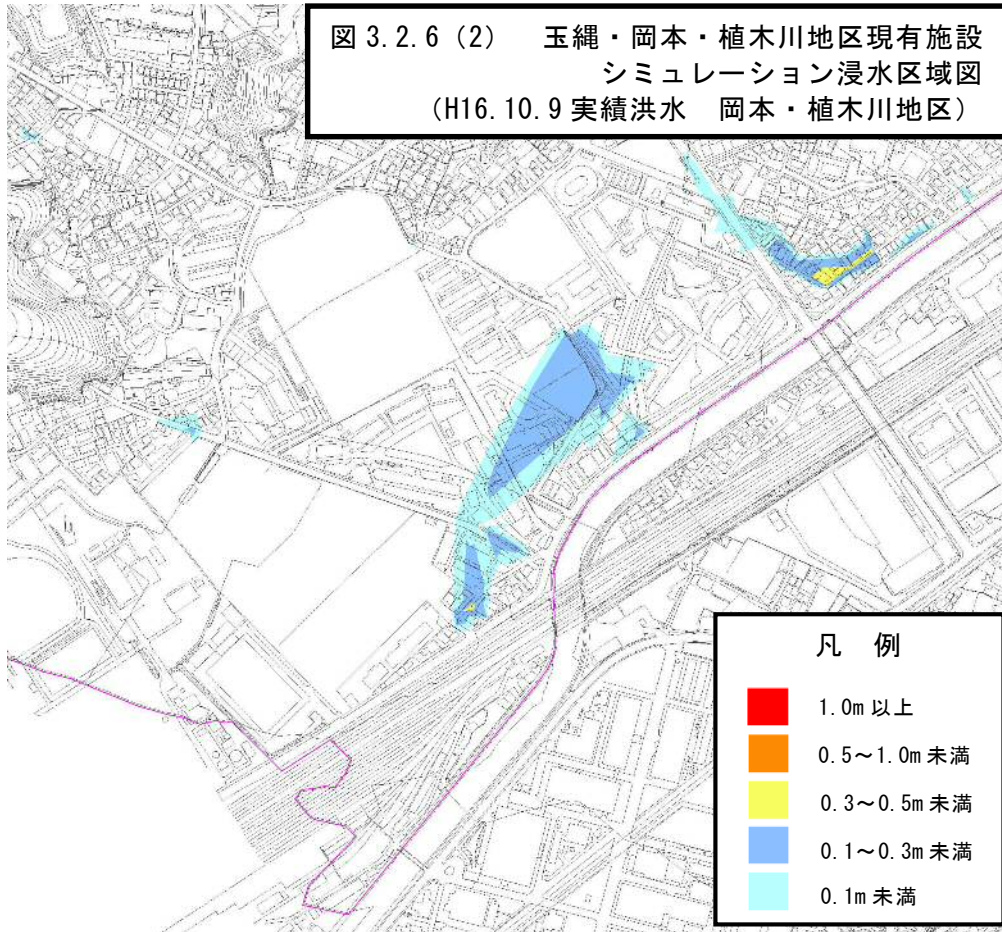


図 3.2.7 砂押川・梅田川・小袋谷川地区現有施設  
シミュレーション浸水区域図  
(H16.10.9実績洪水)

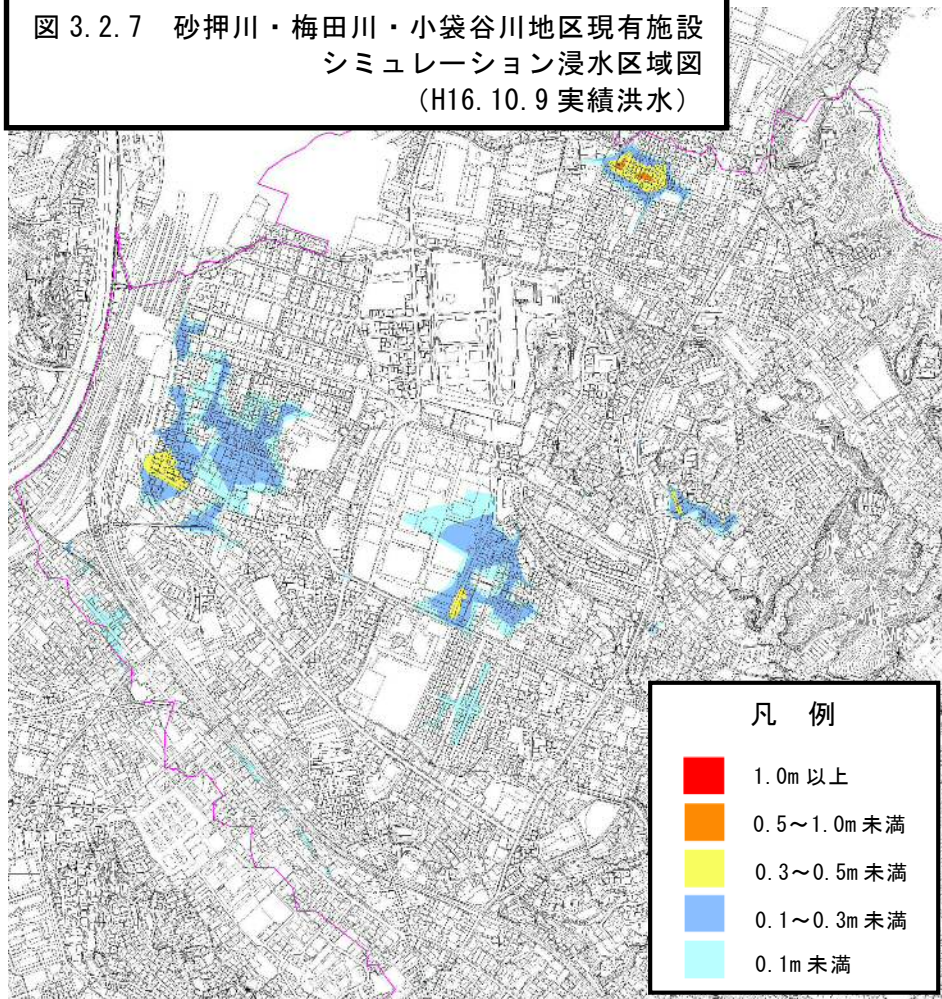




図 3.2.8 古川地区現有施設  
シミュレーション浸水区域図  
(H16.10.9実績洪水)

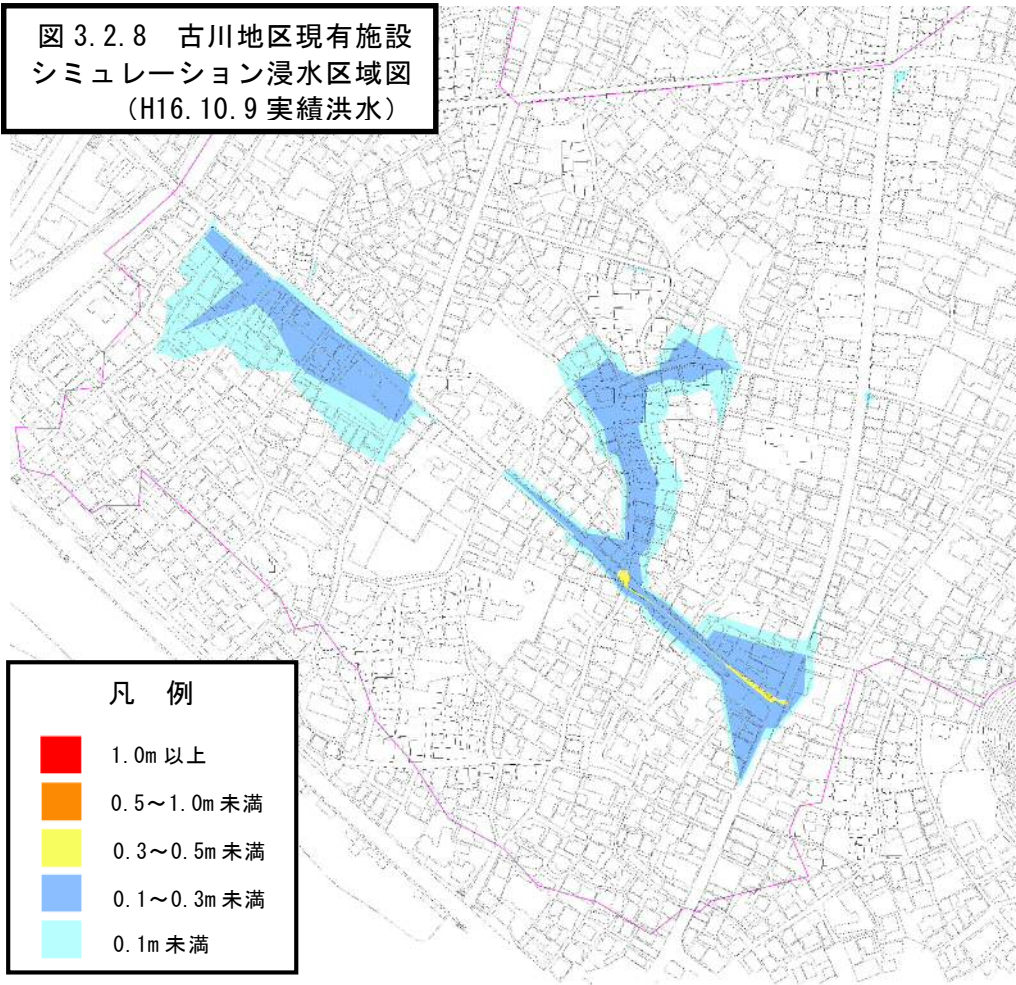


表 3.2.1 各地区の浸水面積と最大浸水深（H16. 10. 9 実績洪水）

地区名	浸水面積 (ha)	最大浸水深 (m)
①大塚川・新川地区 (手広地区を含む)	21.29	1.106
②神戸川・二又川地区 (腰越地区を含む)	10.00	1.145
③佐助川地区	4.86	0.697
④山崎川地区	3.53	0.367
⑤玉縄・岡本・植木川地区	5.15	0.783
⑥砂押川・梅田川・小袋谷川地区 (大船駅前地区を含む)	22.25	1.102
⑦古川地区	3.07	0.325

### 3.2.2 想定浸水被害

上記の7地区を対象に浸水シミュレーションにより得られた浸水区域内の被害額を算定し表 3.2.2 に示した。

表 3.2.2 各地区の浸水区域内諸元と被害額（H16. 10. 9 実績洪水）

地区名	人口 (人)	世帯数(世帯)			従業員数 (人)	被害額 (百万円)
		床下浸水	床上浸水	計		
①大塚川・新川地区 (手広地区を含む)	1,580	512	29	541	596	2,506.2
②神戸川・二又川地区 (腰越地区を含む)	916	303	16	319	158	1,656.8
③佐助川地区	390	177	3	180	308	1,048.4
④山崎川地区	325	137	0	137	237	633.1
⑤玉縄・岡本・植木川地区	384	149	1	150	205	625.4
⑥砂押川・梅田川・小袋谷川地区 (大船駅前地区を含む)	2,371	1,135	10	1,145	1,768	5,855.0
⑦古川地区	349	122	0	122	96	606.6



### 3.3 重点対策地区の設定

現況施設の浸水シミュレーションの結果、大きな浸水被害の発生が想定される地区を重点対策地区として設定する。7地区の中で浸水被害が大きな地区は以下の4地区となる。

- ① 大塚川・新川地区（手広地区を含む）
- ② 神戸川・二又川地区（腰越地区を含む）
- ③ 佐助川地区
- ④ 砂押川・梅田川・小袋谷川地区（大船駅前地区を含む）

この内、④砂押川・梅田川・小袋谷川地区には平成10年に台調整池が整備されており、ここを活用した対策等が考えられるので、重点対策地区からははずすこととする。

また、岡本・植木川地区では、県が所有するフラワーセンター予定地の用地が取得でき、対策が進むことが予想されるので、この地区を重点対策地区に加え、以下の4地区を重点対策地区とする。

- ① 大塚川・新川地区（手広地区を含む）
- ② 神戸川・二又川地区（腰越地区を含む）
- ③ 佐助川地区
- ④ 岡本・植木川地区